

## 「情報社会のガバナンスを先導する研究者育成」 2006 (平成 18) 年度 事業報告

2005 年度に導入し整備した制度的およびハードウェア的インフラを基に、2006 年度は、現在までに以下のような活動を行っている。

### インドネシア・リンケージプログラムの導入準備

2005 年度よりインドネシア政府および諸大学との交渉を開始した「インドネシア・リンケージプログラム」( ) の実施に係る準備を行っている。

#### インドネシアを訪問し協定締結 (2006 年 6 月)

研究科委員長、国際交流担当教員、学事担当職員がジャカルタを訪問して、インドネシア政府代表者およびインドネシア 4 大学 (バンドン工科大学、ガジャマダ大学、インドネシア大学、ブラヴィジャヤ大学) の代表者と、リンケージプログラムの協定締結のための交渉を行い、合意に達した (協定書調印)。

また、義塾大学院への進学に関心を持っているインドネシア人学生に対して、研究科委員長および国際交流担当教員から説明を行った。

#### インドネシア訪問団を迎える (2006 年 11 月)

インドネシア政府代表者および大学代表者からなる訪問団を湘南藤沢キャンパスに迎え、研究科委員長、国際交流担当教員、学事担当職員と会合を持った。前回インドネシア訪問時に締結した協定書において不明確であった点などについて確認を行った。キャンパス施設の見学等を実施した。

#### インドネシア・リンケージプログラム

国際協力銀行 (JBIC) による円借款を原資とするインドネシアの中央および地方の公務員にプロフェッショナル教育を施すための高等人材開発プログラム。日本とインドネシアの大学が協定を結び、プログラム学生は修士課程 1 年目にインドネシアの大学院に、2 年目に日本の大学院に在学して研究を行う。プログラム修了者には両大学院からそれぞれの修士号が授与されるダブルディグリー・プログラム。

### 国際ダブルディグリー・プログラムの拡大

#### 延世大学、復旦大学との覚書を締結 (2006 年 5 月)

2005 年度に訪韓、訪中して交渉を行った延世大学 (韓国)、復旦大学 (中国) との国際ダブルディグリー・プログラムについて最終合意に至り、覚書を締結。これにより本制度が

正式に発足することとなった。

#### **提携先の拡大（2006 年 9 月）**

2005 年度より提携している延世大学 Graduate School of Social and Regional Studies に加え、2007 年度より新たに同大学 Graduate School of International Studies と提携することについて基本合意した。同大学院は英語により授業を行っていることから、より多くの学生の参加が見込まれる。

#### **遠隔システムを用いた研究指導**

本事業の補助金により 2005 年度導入した遠隔授業システムを利用して、2006 年度より協定校との間で遠隔による研究指導・発表が行われた。

#### **e-科目の正式導入(2006 年 4 月)**

2005 年度に試験運用を開始したビデオアーカイブを用いたインターネット経由の遠隔授業（「e-科目」）を、修士課程の正規科目として春学期 3 科目、秋学期 3 科目設置した。国際ダブルディグリー・プログラムによる外国人学生が、提携先大学（韓国）に居ながらにして慶應の科目を履修し単位を修得するなど実績を挙げている。

#### **大学院生海外フィールドワークの奨励**

2005 年度に引き続き、大学院学生の海外フィールドワークを奨励するために、渡航費などの助成を行っている。スマトラ沖地震の津波による被災地に入っているフィールドワークなど、意欲的な研究を支援している。